

* ようこそ看護学科の授業へ③大学道場 mini ゼミ報告レポート

～島内准教授担当「ピアサポートによる性教育」編～*

「大学道場 mini ゼミ」とは、准教授以上の教員が担当し、これまでの研究成果や活動の一端を受講希望した学生達と共有し、大学の“学び”に触れて、“学ぶ”楽しさを感じてもらおうとするものです。今日はその中でも、看護学科母性看護学担当の島内先生が担当された、性教育に関する mini ゼミについて紹介します。

受講生は、看護学科の女子学生 7 名と、こども教育学科の男子学生 1 名の計 8 名。これまで読者の方も、何らかの性教育は受けてこられたでしょう。それは受講生達も同じですので、まずは今まで各自が学んできた性教育についてのディスカッションをすることから始め、最終回は自分達で考えた「中学向けの性教育講義」を、中学生に見立てた当大学 4 年生の前で発表するまでを、8 回のゼミを通して体験しました。島内先生いわく「日本人は性教育と聞くと『いやらしい』とか、『人前で話すべきではない』と蓋をしてしまいがちですが、受講生達は次第に『人として』『勉強の対象として』それを捉えられるようになり、講義を作っていくてくれました」と評価されていました。

受講生達はどうしたら中学生に伝わるかを懸命に考え、パワーポイントと配布資料を準備してゆきました。例えば「男性の性の発達」を担当した学生は、

幼児期～成人期の精巣と性器の大きさを伝えるために、
手作り模型を用いてイメージ作りにも挑戦していました。

それを聴講した先輩学生からは、

温かで親身なコメントが寄せられていました。

それを受けて、受講生たちは早くも次へのステップを

「振り返りシート」に記していました。

(下記の写真は最終回の成果発表会の様子)



このように、過去の振り返り→課題整理→取り組むべき内容の抽出→方法の選択と工夫→実施・評価→振り返り...といった学習プロセスをたどることで、本当の意味で「大学生になってゆく (Becoming)」最初の一步を体感できるのが、大学道場 mini ゼミの醍醐味と言えるのかも知れません。

